

(資料5)

カタクチイワシ瀬戸内海系群に関する 資源管理の基本的な考え方

令和4年11月21日(月)

第9回資源管理手法検討部会
～カタクチイワシ瀬戸内海系群～

水産庁

1. 資源評価の結果について

2. 関係地域の現状について

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見

(2) 各論に関する御意見

- ① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認
- ② 資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項
- ③ 検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項
- ④ 数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向
- ⑤ 数量管理以外の資源管理措置の内容(体長制限、禁漁期間等)
- ⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討
- ⑦ ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項
- ⑧ 管理対象とする範囲(大臣管理区分、都道府県とその漁業種類)

(3) そのほかの御意見

(4) 御意見や論点のまとめ(案)

4. 今後について

1. 資源評価の結果について

- 漁獲量は、1985年に9.3万トンに達した後、減少したが、2000年に3.5万トンまで増加した。その後は2.6万～4.2万トンの間で推移しており、2021年の漁獲量は3.4万トンであった。
- 漁獲圧(F)は、1980年代から1990年代にかけて多くの年で最大持続生産量を実現する漁獲圧(F_{msy})を上回っていたが、2008年以降はF_{msy}を下回っている。親魚量(SB)は、2008年以降は2018、2019年を除いて最大持続生産量を実現する親魚量(SB_{msy})を上回っている。
- 資源量は、1982年に40.4万トンとなった後、1997年まで減少傾向を示した。その後は増加傾向を示し、2021年の資源量は31.9万トンであった。親魚量も、1983年に9.3万トンとなった後、1992年まで減少傾向を示した。その後は増加傾向を示し、2021年の親魚量は8.9万トンであった。

親魚量(2021年)・・・89千トン

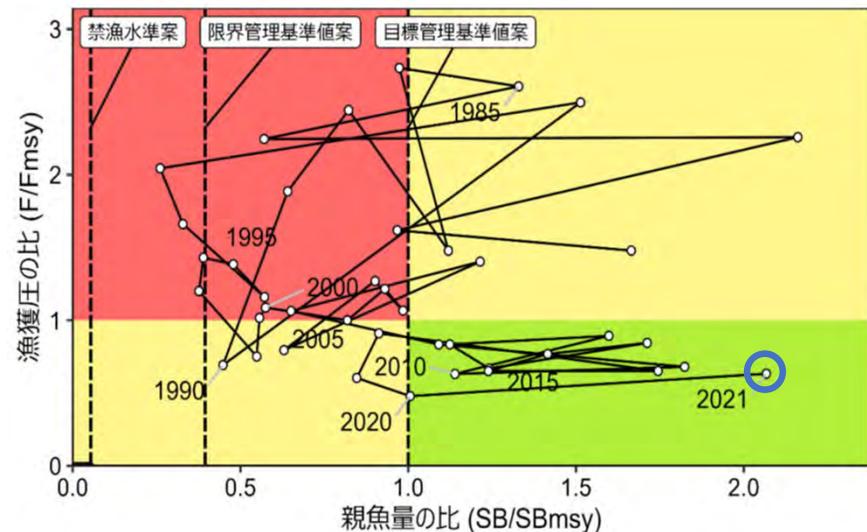
案

目標管理基準値 (Target Reference Point: TRP) ≡回復・維持する目標となる資源水準の値	43千トン
限界管理基準値 (Limit Reference Point: LRP) ≡下回ってはいけない資源水準の値	17千トン
禁漁水準	2千トン

例えば。。。

資源管理の目標例: 10年後に、50%以上の確率で目標管理基準値を上回ること。

《神戸チャート》



仮に、TAC管理を行う場合の将来の漁獲量の平均値

単位: 千トン

資源管理例の目標の達成確率

β	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	達成確率
1	34	46	46	41	40	40	40	40	40	40	40	40	40	43%
0.9	34	46	44	40	39	39	39	39	39	39	39	39	39	48%
0.8	34	46	41	39	38	39	39	39	38	38	38	38	38	54%

2. 関係地域の現状について ～まとめ～

- 春～秋に瀬戸内海で生まれ、そのまま瀬戸内海で成長する個体に加え、春に太平洋で生まれた後に、海流などによって瀬戸内海へ運ばれる個体が含まれている。
- 主に船びき網や中・小型まき網によって漁獲される。漁場は紀伊水道から伊予灘までの各海域に形成される。操業期間は外海に近い海域ではほぼ周年、瀬戸内海中央部では春から秋である。海域によっては、加工に不向きな脂イワシの出現や不漁のため休漁する場合がある。

《分布図》



《参考：漁獲シェア表》

	3 か年平均					5 か年平均		
	H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1	H25-H29	H26-H30	H27-R1
大臣管理分合計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
知事管理分合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
大阪	19.0%	19.0%	18.8%	14.5%	9.7%	19.8%	16.3%	12.5%
兵庫（瀬戸内海）	8.5%	9.7%	7.8%	8.2%	6.4%	7.9%	8.7%	7.7%
和歌山（瀬戸内海）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
岡山	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
広島	24.8%	24.7%	23.9%	24.6%	26.1%	24.1%	25.0%	25.4%
山口（瀬戸内海）	7.2%	7.0%	6.9%	6.2%	6.7%	6.9%	6.7%	6.7%
徳島（瀬戸内海）	3.4%	2.2%	1.7%	1.6%	2.1%	2.6%	2.1%	2.0%
香川	17.8%	18.2%	21.4%	24.6%	26.3%	19.4%	21.3%	24.3%
愛媛（瀬戸内海）	15.6%	15.2%	15.9%	17.2%	19.7%	15.7%	16.4%	18.0%
福岡（瀬戸内海）	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
大分（瀬戸内海）	3.7%	4.1%	3.6%	3.1%	3.0%	3.6%	3.5%	3.4%

※ 水産庁が現時点で入手したデータに基づいて暫定的に計算したものであり、今後のデータ入手や、計算の見直しによってシェアが変更となる可能性があります。

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

※しらす漁獲量は含めていない

2. 関係地域の現状について ～大阪府～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- ほぼ全てが中型まき網漁業で漁獲している。
- 年間を通じて漁獲され、例年6～9月の漁獲が多いが、近年は夏季にマイワシ狙いの操業にシフトし、夏季の漁獲量が減少する年がある。漁獲サイズは5～12cm。
- まき網漁業者は、船びき網漁業を兼業しており、シラスが好調な時はまき網漁業に出漁しないケースもある。
- シラスを船びき網で年間約3千トン漁獲している。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

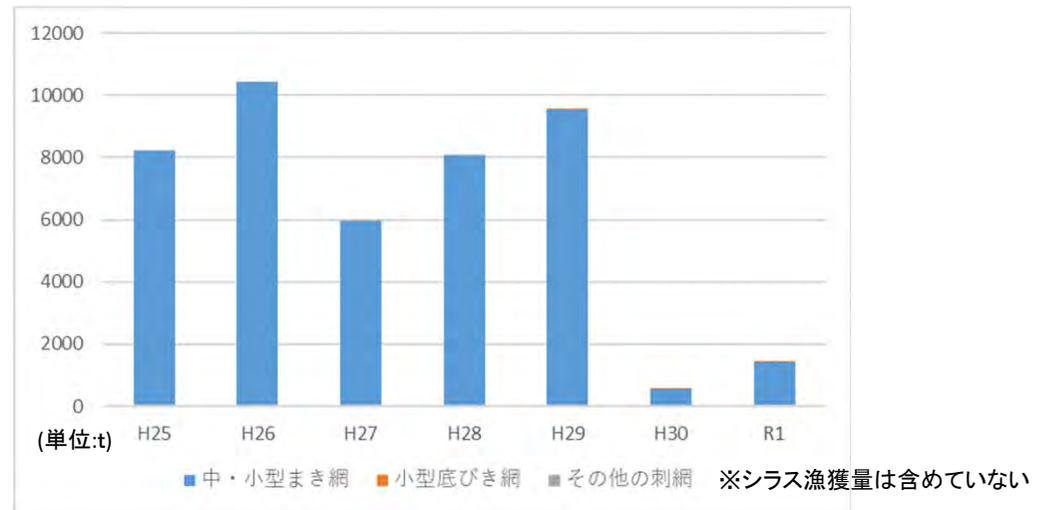
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
19.0%	19.0%	18.8%	14.5%	9.7%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
19.8%	16.3%	12.5%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	8,208	10,410	5,958	8,054	9,520	549	1,410
小型底びき網	1	3	2	3	1	1	1
その他の刺網	1	1	1	1	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 中型まき網漁業において週休2日制を実施。

2. 関係地域の現状について ～兵庫県（瀬戸内海）～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 中型まき網漁業により漁獲されている。当該漁業の主要な漁獲対象であるが、資源の発生、生育、回遊状況により漁獲時期は変わるため明瞭な主漁期はない。
- 漁獲物は大部分が活魚餌向けとして取り扱われる。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

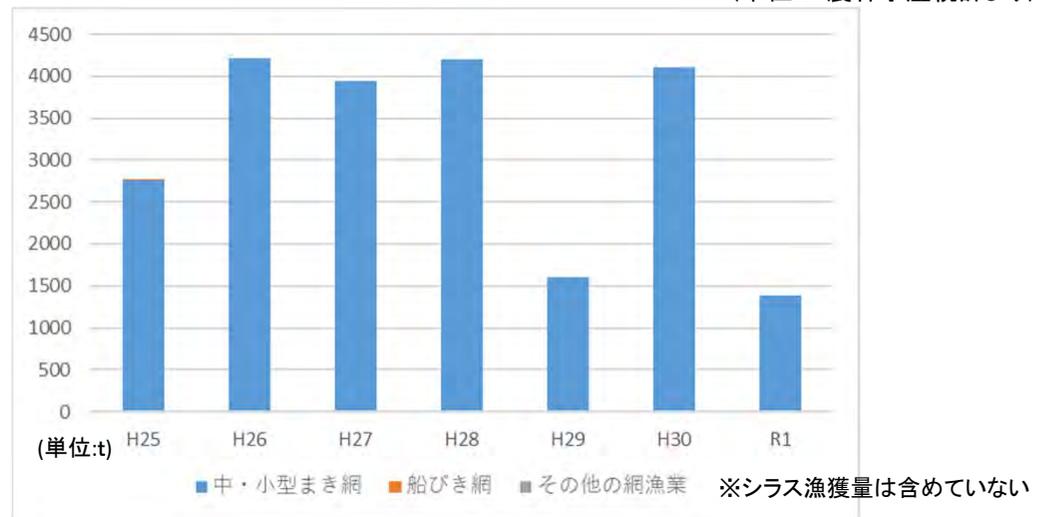
3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
8.5%	9.7%	7.8%	8.2%	6.4%

5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
7.9%	8.7%	7.7%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
中・小型まき網	2,754	4,216	3,942	4,199	1,603	4,101	1,389
船びき網	1	0	0	0	0	0	0
その他の網漁業	0	0	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 公的規制として夜間操業は禁止されているほか、まき網漁業の資源管理計画による休漁の取り組みが本資源にも一定寄与していると考えられる。

2. 関係地域の現状について ～和歌山県（瀬戸内海）～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 船びき網漁業と定置網漁業による漁獲が漁獲量の大半を占める。
- 定置網漁業の漁獲物は、食用や活魚餌向けにされる。
- シラス(カエリ含む)は、船びき網漁業の主要な漁獲対象である。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

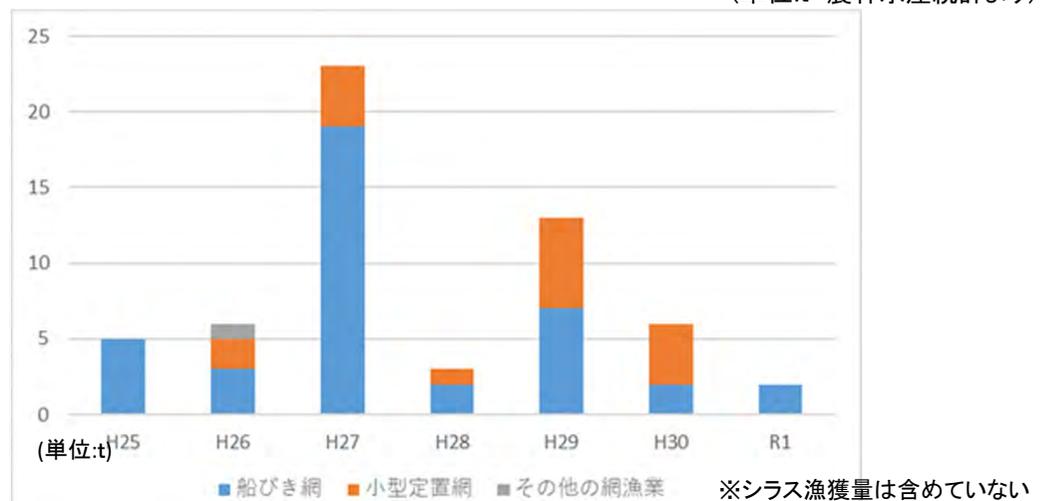
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
船びき網	5	3	19	2	7	2	2
小型定置網	0	2	4	1	6	4	0
その他の網漁業	0	1	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 定期休漁、操業時間の短縮(瀬戸内海機船船びき網漁業)

2. 関係地域の現状について ～岡山県～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 岡山県では、いわし船びき網漁業、餌料いわし袋待網漁業により、2カ月齢までのカタクチイワシを含むシラス類が漁獲されており、3カ月齢以降のカタクチイワシは小型底びき網漁業または小型定置網漁業により、年によってわずかに混獲されている。ただし、小型底びき網漁業及び小型定置網漁業の総漁獲量のうち3カ月齢以降のカタクチイワシが占める割合はごくわずかである。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

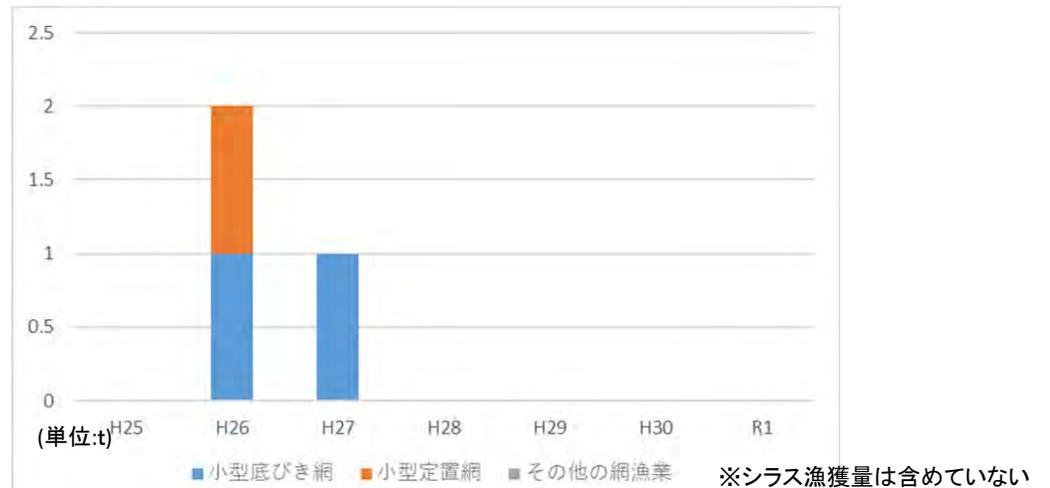
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
小型底びき網	0	1	1	0	0	0	0
小型定置網	0	1	0	0	0	0	0
その他の網漁業	0	0	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 本県においては3ヶ月齢以降のカタクチイワシを主目的とする漁法は無く、漁獲量もごくわずかであるため、体長制限や禁漁期間は設定していない。

2. 関係地域の現状について ～広島県～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 漁獲の大部分を二そういわし船びき網漁業が占める。
- 漁期は、西部(安芸地区)が6月10日～翌2月末、東部(備後地区)が6月10日から12月31日。ちりめん加工されるシラスから、イリコに加工されるカエリ・小羽・中羽・大羽と呼ばれる幅広いサイズを利用。
- 東部(備後地区)は、ちりめん用の漁獲が主だが、西部(安芸地区)は刺身で食する文化があるため、加工用の他、鮮魚出荷用としても漁獲される。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

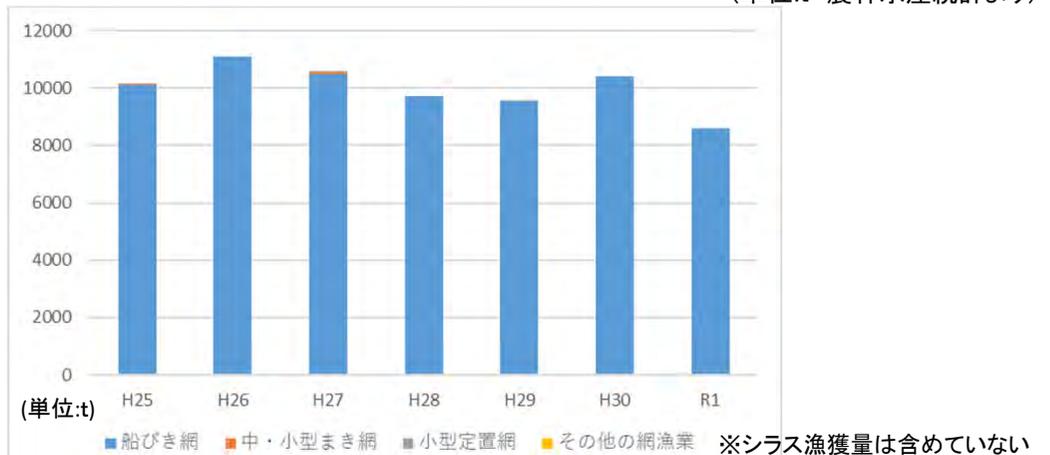
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
24.8%	24.7%	23.9%	24.6%	26.1%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
24.1%	25.0%	25.4%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
船びき網	10,120	11,093	10,488	9,715	9,527	10,402	8,604
中・小型まき網	2	0	59	0	0	0	0
小型定置網	0	0	1	0	1	0	0
その他の網漁業	0	0	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 西部(安芸地区): 土日、祝日の休業
- 東部(備後地区): 週二日(日・木)の休業
- その他、東部では3県(広島県・愛媛県・香川県)で燧灘のカタクチイワシ資源管理(操業開始日、休漁日を統一)

2. 関係地域の現状について ～山口県（瀬戸内海）～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 船びき網が県内全体の概ね95%以上を漁獲している。
- 船びき網の漁期は、概ね6月～11月、チリメン銘柄も少量混ざるもののカエリ～大羽銘柄が漁獲対象。
- 冬から春にかけて、鮮魚向けの成魚を対象とした、たもすくい(自由漁業)による漁獲も行われている。
- 本県瀬戸内海においてシラスを漁獲対象とする漁業はない。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

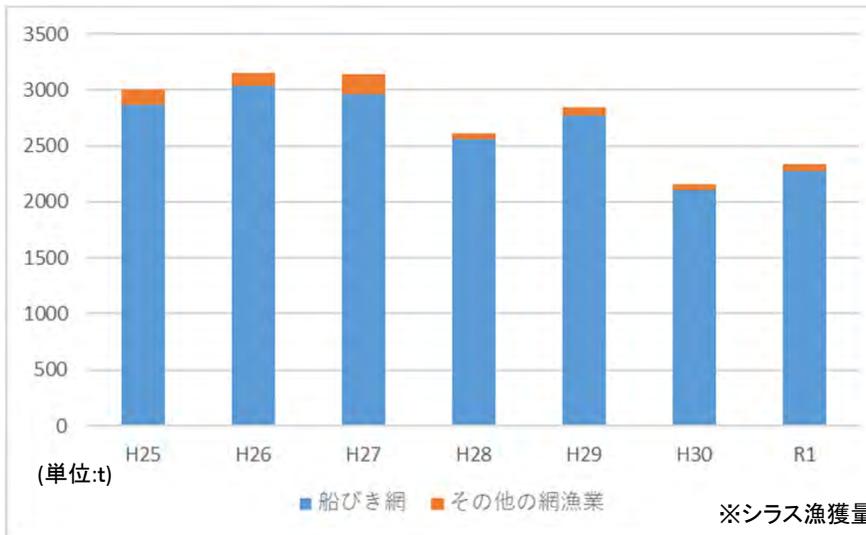
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
7.2%	7.0%	6.9%	6.2%	6.7%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
6.9%	6.7%	6.7%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
船びき網	2,869	3,030	2,956	2,555	2,767	2,104	2,273
その他の網漁業	132	123	183	57	73	51	61

(単位:t 農林水産統計より)



※シラス漁獲量は含めていない

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 瀬戸内海機船船びき網漁業の袋網目合制限(70径以上)。 ※許可の条件
- 瀬戸内海機船船びき網漁業は、年間土曜日40日以上 of 休漁を実施。 ※資源管理計画

2. 関係地域の現状について ～徳島県（瀬戸内海）～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- カタクチイワシ(成魚)については、主に紀伊水道の船びき網で漁獲され、養殖餌料用として販売される。
- 本県においては、シラスとしての漁獲が多い(下記の「漁業種類別漁獲実績」に含まれない)。
- シラスは主に紀伊水道で船びき網により漁獲され、周年漁獲されるが、例年、4月～12月に多い。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

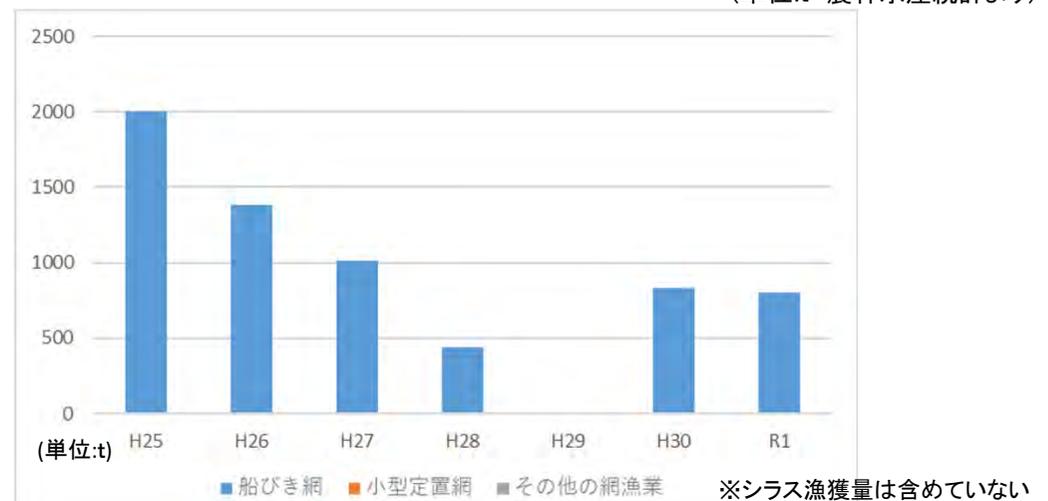
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
3.4%	2.2%	1.7%	1.6%	2.1%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
2.6%	2.1%	2.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
船びき網	2,005	1,379	1,014	437	0	834	802
小型定置網	0	0	0	0	1	0	0
その他の網漁業	0	0	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 船びき網漁業については、資源管理計画による休漁措置に取り組んでいるほか、徳島県鯷船曳網協会連合会で定めたシラス漁の定期休漁、操業時間短縮に取り組んでいる。

2. 関係地域の現状について ～香川県～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 全体の9割以上が、瀬戸内海機船船びき網漁業にて漁獲。
- 瀬戸内海機船船びき網漁業(燧灘)は、主に初夏から晩夏に操業し、近年はカエリから大羽が主な漁獲対象。
- 漁獲物は、漁業者が自らの加工場で煮干にして出荷。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

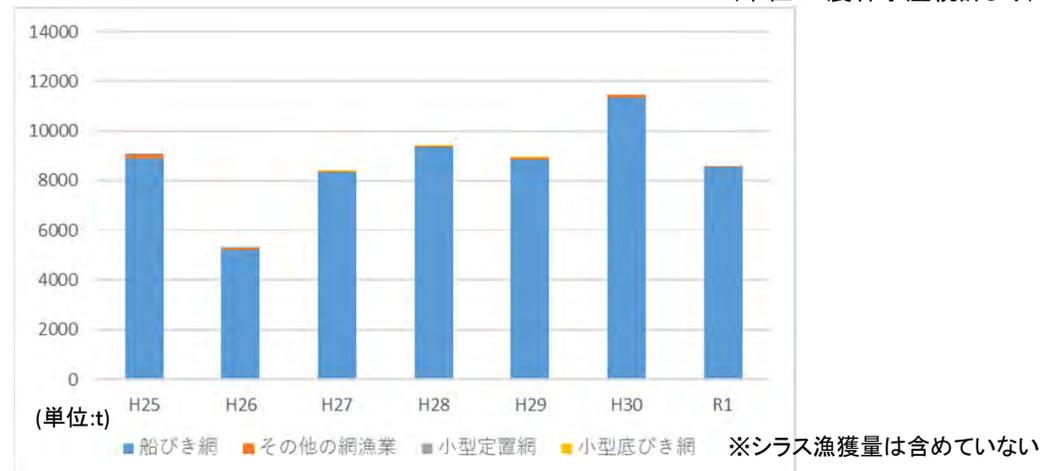
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
17.8%	18.2%	21.4%	24.6%	26.3%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
19.4%	21.3%	24.3%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
船びき網	8,902	5,214	8,324	9,368	8,848	11,333	8,533
その他の網漁業	166	77	63	31	94	130	2
小型定置網	2	1	0	0	0	0	0
小型底びき網	0	0	1	1	1	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 資源管理計画により、休漁日、操業開始日、操業時間の設定、漁具の制限を実施。
- 燧灘では3県(広島県・愛媛県・香川県)で資源管理(操業開始日、休漁日を統一)を実施。
- 煮干しに不向きな「脂いわし」が発生した場合、一定期間休漁を実施。

2. 関係地域の現状について ～愛媛県（瀬戸内海）～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 機船船びき網漁業で漁獲しその割合は100%に近づいている。
- 瀬戸内海機船船びき網漁業では、操業開始日を定め一斉に操業を開始する。いわし機船船びき網漁業では、チリメンも漁獲している。盛漁期は、6月から9月である。
- 近年は、燧灘において漁獲量の低迷が見られる。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

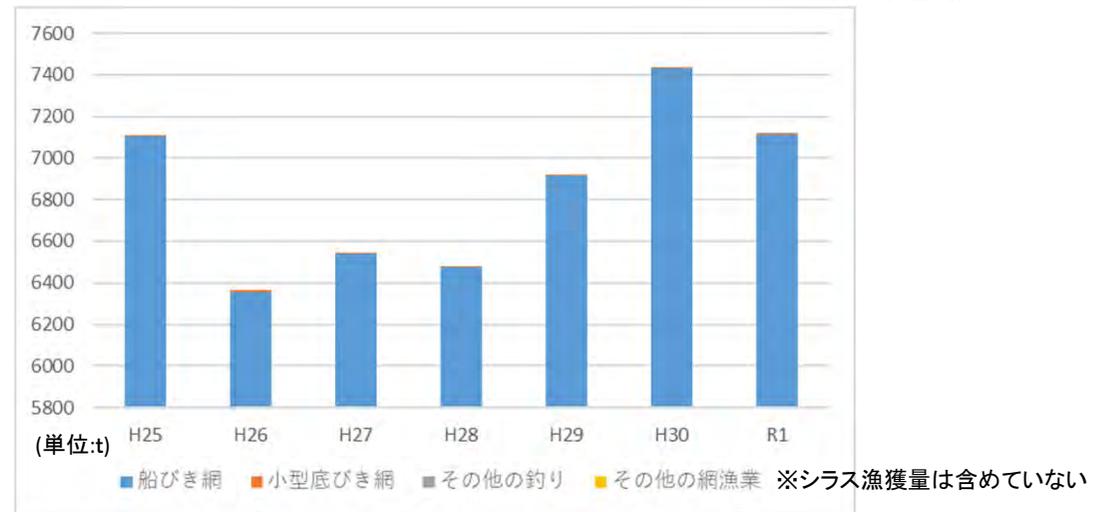
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
15.6%	15.2%	15.9%	17.2%	19.7%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
15.7%	16.4%	18.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
船びき網	7,107	6,355	6,540	6,474	6,916	7,433	7,113
小型底びき網	1	11	5	4	4	4	4
その他の釣り	0	0	0	0	0	0	1
その他の網漁業	0	0	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



数量管理以外の資源管理措置の内容

- 燧灘の機船船びき網漁業は、放卵時期に操業しないような操業開始日の設定を行っている。
- その他、広島、香川、愛媛の3県で燧灘のカタクチイワシの資源管理を行っている(操業開始日、休漁日の統一)

2. 関係地域の現状について ～福岡県（瀬戸内海）～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 本資源を主な対象とする漁業はない。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

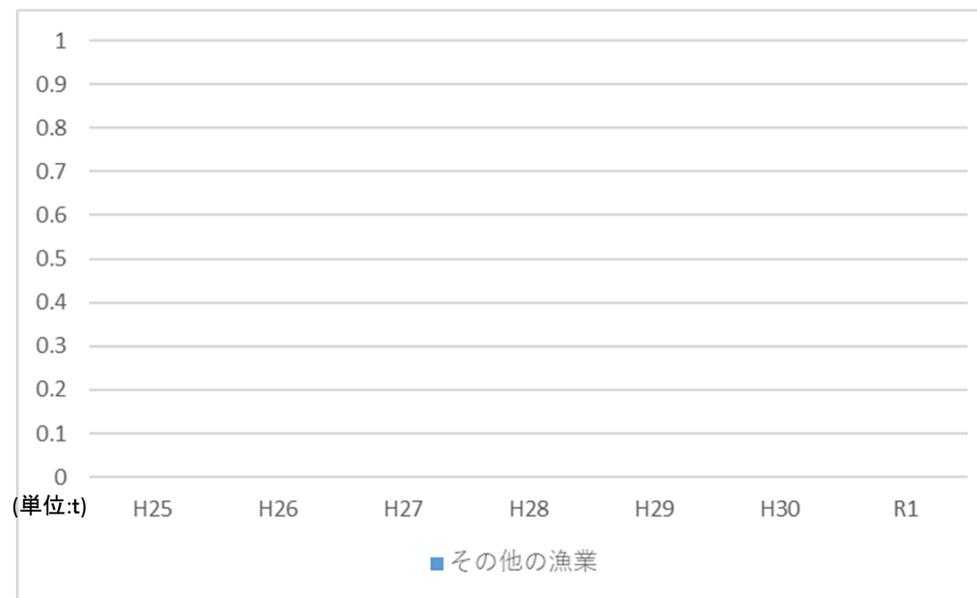
3 か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

5 か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
0.0%	0.0%	0.0%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
その他の漁業	0	0	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



※シラス漁獲量は含めていない

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 特になし。

2. 関係地域の現状について ～大分県（瀬戸内海）～

カタクチイワシを漁獲する漁業の特徴

- 主に、船びき網漁業で漁獲される。
- 年による多少の変動はあるものの、平成29年以降の漁獲量は、1,000トン前後で推移している。

全体に占めるシェア

漁業種類別 漁獲実績

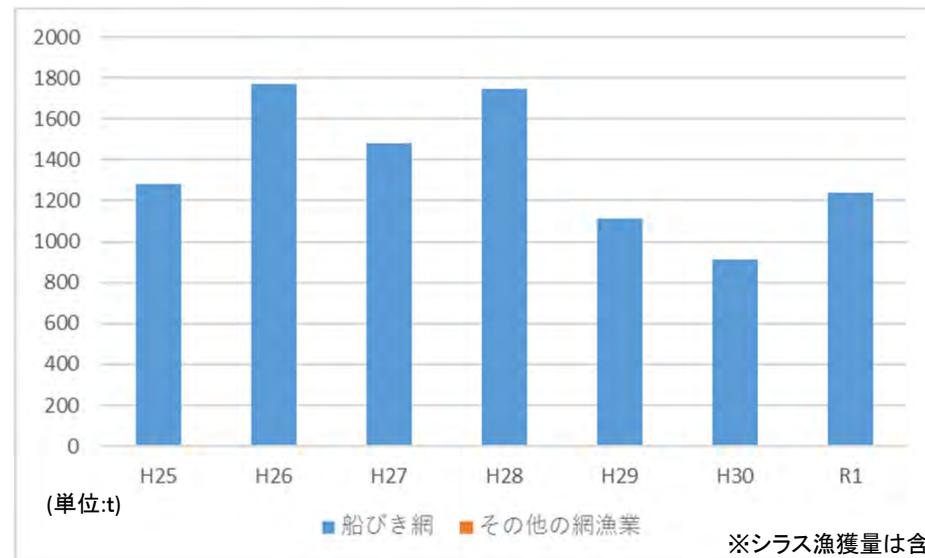
3か年平均				
H25-H27	H26-H28	H27-H29	H28-H30	H29-R1
3.7%	4.1%	3.6%	3.1%	3.0%

5か年平均		
H25-H29	H26-H30	H27-R1
3.6%	3.5%	3.4%

※黄色マーカーは全体上位80%に含まれる値

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
船びき網	1,279	1,772	1,483	1,747	1,109	913	1,240
その他の網漁業	0	0	0	0	0	0	0

(単位:t 農林水産統計より)



※シラス漁獲量は含めていない

数量管理以外の資源管理措置の内容

- 毎月第2土曜日の休漁。

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (1/3)

- 資源管理・資源評価
 - 資源評価におけるシラスの考え方や経緯について、漁業者に対して丁寧にご説明いただきたい。
 - シラスは漁獲圧算定等が困難であり、シラスを評価に含めないことは妥当。
 - マイワシ資源の増加に伴うカタクチイワシ資源の減少をただちに漁獲制限に結び付けることには慎重であるべき。
 - 資源を増加させるためにはシラスを含めた資源管理をしなければならない。
 - シラスとカタクチイワシの漁獲が資源に与える影響を評価し、効果的な資源管理手法を漁業者を含めて検討することが先決。
- TAC導入にあたって
 - 先に成魚期とシラス期の資源関係を明らかにすべき。
 - 資源評価や将来予測の精度を高めつつ慎重に進めるべき。
 - 地域ごとの取組を一切考慮しない一律のTAC管理には疑問。
 - 配分について、都道府県をどのように指導するつもりか、説明責任を果たすべき。
 - TAC管理を行う科学的根拠があるのか大変疑問。
 - これまでの自主的な管理措置も勘案した上で、資源管理を進めて欲しい。

参考人からの御意見

御意見の内容

大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長

瀬戸内海においてカタクチイワシは、成魚、シラスともに漁獲されている。
大阪湾のカタクチイワシ漁獲量は、瀬戸内海全体の漁獲量の1割程度であるが、大阪湾では5割以上を占める年もあることから、カタクチイワシを資源管理の対象魚種にする場合は、先に成魚期とシラス期の資源関係を明らかにすべきである。
また、現在、TAC対象魚種であるマイワシについては、カタクチイワシと競合関係にあるため、マイワシ資源の増加に伴うカタクチイワシ資源の減少をただちに漁獲制限に結び付けることには慎重であるべきと考える。

神戸市漁業協同組合

本資源の最新の評価では、2021年の親魚量は89千トンであり、MSYを実現する親魚量43千トンを上回っている。また、神戸チャートから2008年以降はMSYを実現する漁獲圧を常に下回っており、親魚量は多いと推測されている。現状の漁獲圧の水準でも2033年に目標を達成する試算が示されており、過剰な漁獲圧をかけなければ本資源は良好に推移するのではないかと考える。将来の親魚量、漁獲量ともに、予測のシミュレーションでは振れ幅が大きくあり漁業者の生活に直結する数量管理の導入検討に際しては資源評価や将来予測の精度を高めつつ慎重に進めるべきと考える。

育波浦漁業協同組合

また、シラスは環境の影響によって死亡率が大きく変化する時期で、漁獲圧算定等が困難とのことであり、シラスを評価に含めないことは妥当と考える。瀬戸内海ではシラス漁が盛んであり、シラスの扱いについては適切に資源評価が可能となるまで慎重に議論願いたい。

3. 本部会で議論する事項について

(1) 全体に関する御意見 (2/3)

参考人からの御意見	御意見の内容
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長	<p>広島県では二艘いわし船曳網漁業でカタクチイワシを漁獲しており、県中西部の安芸灘と県東部の燧灘が主な漁場。</p> <p>私は対象資源について県内で最も漁獲量が多い漁協の組合長及び安芸灘海域のいわし船曳網漁業経営体(26経営体)が参画している協議会の会長を務めておりますが、安芸灘に限って言えば年によって多少の前後はあるものの、安定した漁獲が維持されている。</p> <p>これは上記した協議会において漁業者独自の休漁日の設定、操業時間短縮の申し合わせ等の資源管理を自主的に行った結果であり、地域ごとの取組みを一切考慮しない一律のTAC管理には疑問を感じる。</p> <p>また、水産庁においては仮にTAC管理対象魚種に指定された場合の配分について、都道府県をどのように指導するつもりなのか？本資源に依存して生計を立てている漁業者及びその従事者も多く、説明責任を果たすべきであると思う。</p>
走島漁業協同組合 理事	<p>広島県では二艘いわし船曳網漁業でカタクチイワシを漁獲しており、県中西部の安芸灘と県東部の燧灘が主な漁場。</p> <p>燧灘においては、1993年より資源管理の為、広島、香川、愛媛の3県において自主的に資源管理事業を行っているにもかかわらず、燧灘(広島県海域)の漁獲量は全く回復の兆しが無い。平成20年代からは資源の減少と不安定さが顕著であり、年間を通じて操業が困難な年が幾度もあった。その上にTAC管理を行う科学的根拠があるのか大変疑問。</p>
香川県漁業協同組合 連合会 代表理事会 長	<p>瀬戸内海ではシラスとカタクチイワシの漁獲量が同程度あり、カタクチイワシという魚種の資源を増加させるためにはシラスを含めた資源管理をしなければならないと考えている。</p> <p>まずシラスを含めた資源評価を行い、シラスとカタクチイワシの漁獲が資源に与える影響を評価し、効果的な資源管理手法を漁業者を含めて検討することが先決ではないだろうか。</p> <p>カタクチイワシは資源量の変動が激しく、数量管理には馴染まないと考える。</p> <p>シラスについて数量管理から除外することは、むしろ漁業者がシラスを漁獲することを助長することとなり、国がこれまで推進してきた資源管理手法と逆行することになるのではないかと。</p>
愛媛県漁業協同組合 三島支所	<p>2022年9月30日付けで公表されたカタクチイワシ瀬戸内海系群資源評価結果において資源量は1980年代後半から1997年まで減少傾向を示し、その後増加傾向を示し2021年の資源量は31.9万トンとなっているが、我々漁業者としても資源管理の重要性は十分認識しており、昭和50年代後半から三島・川之江地区のパッチ網漁業者(瀬戸内海いわし機船船びき網)と香川県の伊吹漁協のパッチ網漁業者は、資源保護や漁業秩序の確立を目的に香川・愛媛パッチ網協議会を設立し資源の自主管理に努めてきた。</p> <p>カタクチイワシは三島・川之江地区内の重要な水産資源であることは我々が一番理解しており、産卵後のカタクチイワシを対象として漁獲するために5月15日から翌年1月15日まで許可されている操業期間のうち、実際の操業期間を6月10日頃から11月末にすることや週2日の休日を設定する等、我々はこれまでも自主的に資源保護に努めながら漁家経営を行ってきた。</p> <p>更にこの上、追加の漁獲制限を行った場合、パッチ網漁業者は収入低下により漁家経営の存続が危ぶまれる。</p> <p>国に対しては、カタクチイワシ瀬戸内海系群を漁獲する漁業種類を一律に規制するのではなく、これまでの自主的な管理措置も勘案した上で、資源管理を進めて欲しい。</p>

3. 本部会で議論する事項について (1) 全体に関する御意見 (3/3)

意見表明者の御意見	御意見の内容
岡山県漁業協同組合 連合会 参与	<p>岡山県においてカタクチイワシを漁獲している漁業は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 知事許可漁業 いわし船びき網漁業、餌料いわし袋待網漁業、小型底びき網漁業2. 漁業権漁業 小型定置網漁業 いわし船びき網漁業、餌料いわし袋待網漁業では、2カ月齢までのカタクチイワシを含むシラス類が漁獲されており、小型底びき網漁業及び小型定置網漁業では3カ月齢以降のカタクチイワシ漁獲されている。ただし、小型底びき網漁業及び小型定置網漁業の総漁獲量のうちカタクチイワシが占める割合はごくわずかである。 <p>資源評価は2カ月齢までのカタクチイワシを除外して算出されたものであり、数量管理については3カ月齢以降のカタクチイワシに対して設定されると認識している。ステークホルダー会合においては、このような管理を導入することになった経緯について、漁業者に対して丁寧にご説明いただきたい。</p>

3. (2) 各論に関する御意見

① 検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認

- 現状の漁獲報告の収集体制
 - 【大阪】数量についてはほぼ正確に把握されている。
 - 【岡山県】収集体制は整っているが、現在は四半期ごとに報告を県が受けており、即時的なデータ収集が困難。
- 全体
 - 現場に負担のかからない報告体制を構築する必要がある。
 - 報告の必要性を漁業者に説明し、理解を得るべき。
 - 電子的な報告体制の整備状況によっては、県間で報告義務の履行に差が生じる恐れがある。
 - シラスと交じりで報告される場合があるが、その場合の漁獲量の集計方法はどのようなのか。

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	大阪湾におけるカタクチイワシの漁獲は、農林統計ではほとんどすべてが中型まき網によるものなので、数量についてはほぼ正確に把握されている。
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長	漁業者の負担にならない方法を行政が確立しないと正確な報告は困難。また、報告の必要性を漁業者に説明し、理解を得るべきであると考えます。
走島漁業協同組合 理事	
香川県漁業協同組合連合会 代表理事会長	本県のカタクチイワシは市場を経由することなく、共販や加工場へ販売されるため、現場に負担のかからない報告体制を構築する必要がある。 他県の漁業者が本県知事による許可に基づき本県海域で操業する場合、電子的な報告体制の整備状況によっては、県間で報告義務の履行に差が生じる恐れがあると考えます。 シラスと交じりで報告される場合があるが、その場合の漁獲量の集計方法はどのようなのか。
愛媛県漁業協同組合 三島支所	三島支所所属のパッチ網(瀬戸内海いわし機船船びき網)漁業者の漁獲状況については三島支所において管理し、県に対し漁獲報告を行っている。
意見表明者の御意見	御意見の内容
岡山県漁業協同組合連合会 参与	漁業法に基づき知事許可漁業及び漁業権漁業を行う漁業者に対して漁獲量の報告が義務付けられており、カタクチイワシの漁獲量を収集する体制が整っているが、現在は四半期ごとに報告を県が受けており、即時的なデータ収集が困難である。

3. (2) 各論に関する御意見

②資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項 (1/2)

- 全体
 - シラスとの関係について、傾向だけでも明らかにして欲しい。漁獲量についても把握すべき。
 - 資源評価や将来予測の精度を高めつつ慎重に進めるべき。
 - 環境面の調査や海底耕耘、大発生しているクラゲ除去等、より優先度が高い課題がある。
 - TAC管理を導入した場合に、シラスの資源管理はどのように行うのか。
- 資源評価
 - 他の魚種との関係を十分に検討したうえで、資源評価をして欲しい。
 - 瀬戸内海系群を1つの系群とする根拠を示してほしい。
 - 環境面(海況含む)が変化している要因等も考慮すべき。
 - 加入量の推定方法、資源量及び親魚量の関係性、再生産関係式や資源評価の妥当性について明記すべき。

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	毎年の漁獲量が資源量を必ずしも反映していない。例えば、シラスの方が好漁であれば、まき網に行かずシラス漁に行くため、カタクチイワシの漁獲量は減少する。その数字をもって資源が減少したと判断するのは早計であるので、その年の他の魚種との関係を十分に検討したうえで、資源評価をされたい。 資源管理目標を定める上で、シラスとの資源関係は少なくとも傾向だけでも明らかにしないと漁業者は納得しないと思う。 大阪湾や他の内湾など瀬戸内海系群の中でも独立に近い系群と瀬戸内海系群をどのように評価するか。瀬戸内海系群を1つの系群とする根拠を示してほしい。
神戸市漁業協同組合 育波浦漁業協同組合	本資源の最新の評価では、2021年の親魚量は89千トンであり、MSYを実現する親魚量43千トンを上回っている。また、神戸チャートから2008年以降はMSYを実現する漁獲圧を常に下回っており、親魚量は多いと推測されている。現状の漁獲圧の水準でも2033年に目標を達成する試算が示されており、過剰な漁獲圧をかけなければ本資源は良好に推移するのではないかと。将来の親魚量、漁獲量ともに、予測のシミュレーションでは振れ幅が大きくあり漁業者の生活に直結する数量管理の導入検討に際しては資源評価や将来予測の精度を高めつつ慎重に進めるべきと考える。
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長	環境面(海況含む)が変化している要因等、漁獲圧以外に資源評価をするにあたって考慮すべき論点があると思う。

3. (2) 各論に関する御意見

②資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項 (2/2)

参考人からの御意見	御意見の内容
走島漁業協同組合 理事	海況の変化により、親がいても稚魚(しらす)がわからない、稚魚がいても育たない状況が続いている。環境面の調査や海底耕耘、大発生しているクラゲ除去等、TACより優先度が高い課題があると思う。 資源評価にしらすが含まれていないが、TAC管理でのしらすの位置づけをどう考えているのか？
香川県漁業協同組合 連合会 代表理事会 長	加入量の推定方法、資源量及び親魚量の関係性、再生産関係式や資源評価の妥当性について明記する必要があると考える。 カタクチイワシは魚食性魚類の主要な餌となり、サワラやスズキなどの資源量を考慮すべきであると考え。 瀬戸内海機船船びき網漁業において、煮干しに不適な「脂いわし」が毎年のように出現し、資源が豊富な年であっても、資源保護のため獲り控えしており、資源量が過小評価されている恐れがある。
愛媛県漁業協同組合 三島支所	カタクチイワシ瀬戸内海系群の資源評価は「シラス」を除くとされているが、「シラス」の漁獲を目的に操業している漁業者もいることから、資源管理目標を導入するのであれば、「シラス」の漁獲量についても把握すべきであると考え。

3. (2) 各論に関する御意見

③検討すべき漁獲シナリオの選択肢、漁獲シナリオを採択する際の注意事項

- 漁獲シナリオ
 - これまでの資源の動向や環境要因を踏まえたもの、漁業者の自主的取組(禁漁期の設定、漁獲サイズの制限)を考慮したもの、禁漁期間の設定などを検討する必要がある。
 - 複数の漁獲シナリオを図示した上で、漁業者に説明すべき。
- 注意事項
 - 資源評価や将来予測の精度を高めつつ慎重に進めるべき。
 - マイワシとの相関関係も考慮した上での対応が必要。
 - 禁漁期間を設定した場合、漁業者及び従業員等への休漁補償を検討する必要がある。
- その他
 - 漁業者の意見を聴くと水産庁は述べているが、具体的にどのように聴くのか。

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	マイワシ資源は瀬戸内海では今は低調であるが、これが増加してきたときに、カタクチイワシ単独での漁獲シナリオは無理があるので、マイワシとの相関関係も考慮した上での対応が必要。
神戸市漁業協同組合 育波浦漁業協同組合	②のとおり
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長 走島漁業協同組合 理事	TAC管理ありきで進める漁獲シナリオを漁業者は望んでいない。漁業者の意見を聴くと水産庁は述べているが具体的にどのように聴くつもりなのか？
香川県漁業協同組合 連合会 代表理事会 長	これまでの資源の動向や環境要因も踏まえた上で、漁獲シナリオを採択する必要がある。漁業者の自主的取組(禁漁期の設定、漁獲サイズの制限)を考慮した漁獲シナリオも検討する必要があると考える。複数の漁獲シナリオを図示した上で、漁業者に説明すべきである。
愛媛県漁業協同組合 三島支所	禁漁期間の設定。 禁漁期間を設定した場合、漁業者及び従業員等への休漁補償を検討する必要があると思われる。

3. (2) 各論に関する御意見

④数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向 (1/2)

● 課題

- 漁業者の理解をどのような説明で得るのか。
- 県は数量配分をどのように行うのか。
- TAC管理の導入によって従来の資源管理が実践されなくなる恐れがある。
- カタクチイワシとシラスの両方を漁獲しており、カタクチイワシのみに数量管理が導入されることは漁業者に不公平感が生まれることになる。関係者へしっかりと説明していく必要がある。
- 瀬戸内海では入会が多く、共通の資源を利用するに当たって、隣県との管理方法の差異は問題となる。
- 毎年の資源変動の大きい資源であり、予想を超える来遊があったときのTAC配分はどうするのか。

● 対応方向

- 資源評価や将来予測の精度を高めつつ慎重に進めるべき。
- 従来の資源管理を考慮した配分を検討して欲しい。
- 管理の手法や水準を変更する明確なメリットを示す必要がある。
- 柔軟かつ迅速なTAC管理ができる仕組みを明示する必要がある。
- 地域経済への影響も踏まえた経済的支援も検討していただきたい。

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	シラスとの関係については、先述した通り。 毎年の資源変動の大きな魚種であるため、年度途中での資源動向を把握し、適宜管理目標の見直し修正を可能とすること。
神戸市漁業協同組合 育波浦漁業協同組合	②のとおり。
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長	漁業者の理解をどのような説明で得るのか。 県は数量配分をどのように行うのか。この部分が具体的に決まっていない中でTAC管理に賛成は出来ない。先にTAC管理を行うことだけを決めてしまい、数量配分は後で考えるというのは順序が違う。
走島漁業協同組合 理事	TAC管理になったらこの方法で配分されると示されるから漁業者が自らの経営にどう影響するのか考えられる。

3. (2) 各論に関する御意見

④数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向 (2/2)

参考人からの御意見	御意見の内容
香川県漁業協同組合 連合会 代表理事会 長	<p>瀬戸内海機船船びき網漁業においては、当歳魚(シラス)の解禁日を遅らせ、魚体重の増加を待って漁獲することによって漁獲量を増加させて漁獲する資源管理を実践している。しかし、TAC管理の導入によって前記資源管理が実践されなくなる恐れがある。</p> <p>さらに、同漁業においては、煮干しに不適な「脂いわし」が出現した際には、資源保護のために休漁している。TAC配分の際には、この資源保護の取組みを考慮し、「脂いわし」が出なかった年に漁獲量が制限されることがないようにして頂きたい。</p> <p>現行の漁獲圧であっても、最大持続生産量を達成する漁獲圧より小さい漁獲圧であり、2033年までに60%の確率で資源管理目標を上回ると予測されている状況において、管理の手法や水準を変更する明確なメリットを示す必要があると考える。</p> <p>本県では、カタクチイワシとシラスの両方を漁獲しており、カタクチイワシのみに数量管理が導入されることは漁業者に不公平感が生まれることになるため、関係者へしっかりと説明していく必要がある。</p> <p>瀬戸内海では入会が多く、共通の資源を利用するに当たって、隣県との管理方法の差異は問題となると考える。</p> <p>変動の大きい資源であり、予想を超える来遊があったときのTAC配分はどのようにするのか。柔軟かつ迅速なTAC管理ができる仕組みを明示する必要がある。</p> <p>本県においてカタクチイワシは煮干しの原料として非常に重要な資源である。また、漁業者自らが加工場を持ち、煮干し加工を行っている経営体が多数あり、乗組員や加工従業員の雇用の場となるなど地位経済において非常に重要な産業となっている。数量管理の導入にあたっては、同時に地域経済への影響も踏まえた経済的支援も検討していただきたい。</p>
愛媛県漁業協同組合 三島支所	<p>特定の漁業種類の漁業者だけが取り組むのではなく、同じ資源を漁獲する全ての漁業者が理解し、取り組むこと。ただし、取組みは一律ではなく、これまでの自主管理措置等も勘案して行うこと。</p>
意見表明者の御意見	御意見の内容
岡山県漁業協同組合 連合会 参与	<p>岡山県における3ヶ月齢以降のカタクチイワシの漁獲は小型底びき網漁業及び小型定置網漁業による混獲が主体である。魚種及び漁法の特性から再放流は困難であることから、数量管理導入により休漁を余儀なくされた場合漁業経営に与える影響が大きい。</p>

3. (2) 各論に関する御意見

⑤数量管理以外の資源管理措置の内容（体長制限、禁漁期間等）（1/2）

● 資源管理措置

- 【大阪府】自主的な資源管理において週休2日制を採用。
- 【兵庫県】船びき網漁業(シラス)では各地で週2日以上 of 休漁を設定。操業時間の制限等も実施。
- 【広島県1】安芸海域いわし船曳網協議会では、毎週土日の休漁、10月以降の祝日の休漁、漁業許可の操業可能時間より短い操業時間の設定
- 【広島県2】燧灘においては、1993年より資源管理の為、広島、香川、愛媛の県において自主的に資源管理事業を行っている。木曜日、日曜日の休漁、年ごとに操業開始日の決定(資源状況を勘案)
- 【香川県】休漁日や休漁期間の設定等。
- 【愛媛県】燧灘海域では、産卵親魚保護の観点から実際の積算水温や卵稚仔量などの調査結果・指標に基づいて産卵後の親魚を漁獲
- 【岡山県】3ヶ月齢以降のカタクチイワシを主目的とする漁法が無く、漁獲量もわずかであるため体長制限や禁漁期間は設定していない。2カ月齢までのカタクチイワシを含むシラス類を漁獲するいわし船びき網漁業、餌料いわし袋待網漁業においては、漁業者の自主的な資源管理措置として休漁期間を設定。

● その他

- シラスとの関係を考えるなら、親を守るのか子を守るのか、両方のバランスをどのようにすれば資源が守れるのかを明らかにしていただきたい。
- 【大阪府】シラスを漁獲している以上、体長制限は不可能。まき網漁業についても周年行うため、禁漁期間も不可能。ただし、毎日の操業時間についての制限は漁業者のコンセンサスが得られれば可能。
- 従来の自主的な取組の効果を示す必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症や燃油代等のコスト増加により流通面で多大な影響が生じている中で、従来に加えて新たな資源管理措置に取り組むことは経営面の観点からも困難。
- 産卵親魚保護の観点から実際の積算水温や卵稚仔量などの調査結果・指標に基づいて産卵後の親魚を漁獲するように海域・灘別に取り組むことが必要。

3. (2) 各論に関する御意見

⑤数量管理以外の資源管理措置の内容（体長制限、禁漁期間等）（2/2）

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	<p>シラスとの関係を考えるなら、親を守るのか子を守るのか、両方のバランスをどのようにすれば資源が守れるのかを明らかにしていただきたい。</p> <p>シラスを漁獲している以上、体長制限は不可能。また、まき網漁業についても周年行うため、禁漁期間も不可能である。ただし、毎日の操業時間についての制限は漁業者のコンセンサスが得られれば可能。</p> <p>なお、現在まき網漁業については、自主的な資源管理において週休2日制を採用している。</p>
神戸市漁業協同組合 育波浦漁業協同組合	<p>船びき網漁業(シラス)では各地で週2日以上 of 休漁を設定しているほか、操業時間の制限等も実施している。</p>
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長	<p>安芸海域いわし船曳網協議会は以下のとおり独自の資源管理を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週土日の休漁 ・10月以降の祝日の休漁 ・漁業許可の操業可能時間より短い操業時間の設定
走島漁業協同組合 理事	<p>燧灘においては、1993年より資源管理の為、広島、香川、愛媛の3県において自主的に資源管理事業を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木曜日、日曜日の休漁 ・年ごとに操業開始日の決定(資源状況を勘案)
香川県漁業協同組合 連合会 代表理事会 長	<p>現在、休漁日や休漁期間の設定等に漁業者が自主的に取り組んでおり、自主的な取組の効果を示す必要があると考える。なお、新型コロナウイルス感染症や燃油代等のコスト増加により流通面で多大な影響が生じている中で、従来に加えて新たな資源管理措置に取り組むことは経営面の観点からも困難であるとする。</p>
愛媛県漁業協同組合 三島支所	<p>燧灘海域では実施しているが、産卵親魚保護の観点から実際の積算水温や卵稚仔量などの調査結果・指標に基づいて産卵後の親魚を漁獲するように海域・灘別に取り組むことが必要と考える。</p>
意見表明者の御意見	御意見の内容
岡山県漁業協同組合 連合会 参与	<p>前述したとおり、本県においては3ヶ月齢以降のカタクチイワシを主目的とする漁法が無く、漁獲量もわずかであるため体長制限や禁漁期間は設定していない。なお、2カ月齢までのカタクチイワシを含むシラス類を漁獲するいわし船びき網漁業、餌料いわし袋待網漁業においては、漁業者の自主的な資源管理措置として休漁期間が設定されている。</p>

3. (2) 各論に関する御意見

⑥ 予め意見を聞くべき地域、漁業種類、関係者等の検討

- 地域
 - 【岡山県】県内全域。
- 漁業種類・関係者等
 - 【兵庫県】巻き網、船びき網漁業、流通加工業者
 - 【広島県】安芸灘、燧灘の二艘いわし船曳網漁業の経営者及びその従事者等、本資源に依存して生計を立てている全ての者。
 - 【香川県】瀬戸内海機船船びき網漁業に従事する漁業者、機船船びき網漁業、定置網漁業、加工業者
 - 【愛媛県】いわし・あじ・さばまき網漁業、機船船曳網漁業
 - 【岡山県】いわし船びき網、餌料いわし袋待網、小型定置網、小型底びき網に従事する漁業者及びその関係者

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	カタクチイワシの漁獲量の多い広島、愛媛、香川の各県でカタクチイワシを対象または混獲する漁業種類を経営する漁業者。
神戸市漁業協同組合 育波浦漁業協同組合	巻き網、船びき網漁業 流通加工業者
鹿川漁業協同組合 代表理事 組合長	広島県でいうと安芸灘、燧灘の二艘いわし船曳網漁業の経営者及びその従事者等、本資源に依存して生計を立てている全ての者。
走島漁業協同組合 理事	
香川県漁業協同組合連合会 代表理事会長	特に、カタクチイワシを多く漁獲する瀬戸内海機船船びき網漁業に従事する漁業者の意見を重点的に聴く必要があると考える。さらに、機船船びき網漁業、定置網漁業、加工業者も対象に意見を聴くべきであると考え。
愛媛県漁業協同組合三島支所	いわし・あじ・さばまき網漁業、機船船曳網漁業
意見表明者の御意見	御意見の内容
岡山県漁業協同組合連合会 参与	地域 : 県内全域 漁業種類: いわし船びき網、餌料いわし袋待網、小型定置網、小型底びき網 関係者等: 上記漁業に従事する漁業者及びその関係者

3. (2) 各論に関する御意見

⑦ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項

- ステークホルダー会合で検討する前に漁業者の意見を聴き、それに回答する場が必要。
- 漁獲可能量管理を導入することのメリット、経営面での支援策を提示する必要がある。
- 漁業者の理解を得るため、国は具体的な管理措置について説明する必要がある。
- なぜカタクチイワシのみの資源管理なのか、シラスの資源管理の方向性についても説明が必要である。
- シラスとの資源関係について明確な説明のないカタクチイワシの資源管理は漁業者の理解を得るのは難しい。
- 今後の資源動向に関する予想、効果的な資源管理方法の提言をして欲しい。

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	シラスとの資源関係について明確な説明のないカタクチイワシの資源管理は漁業者の理解を得るのは難しいと考える。資源変動の大きな魚種であり、世代交代が速い魚種でもあることから適切な資源管理により、資源の回復も早いという学術的な論拠を示すこと。
神戸市漁業協同組合 育波浦漁業協同組合	シラスの取扱い。
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長	ステークホルダー会合で検討する前に漁業者の意見を聴き、それに回答する場が必要だと思う。
走島漁業協同組合 理事	
香川県漁業協同組合 連合会 代表理事会 長	漁獲可能量管理を導入することのメリット、経営面での支援策を提示する必要があると考える。漁業者の理解を得るため、国は具体的な管理措置について説明する必要があると考える。なぜカタクチイワシのみの資源管理なのか説明する必要があると考える。また、シラスの資源管理の方向性についても説明が必要であると考え。
愛媛県漁業協同組合 三島支所	今後の資源動向に関する予想。 効果的な資源管理方法の提言。
岡山県漁業協同組合 連合会 参与	岡山県内の漁業者は2カ月齢までのカタクチイワシを含むシラス類の資源管理措置について関心が高いので、シラスを含めたカタクチイワシの資源評価・資源管理についてご説明いただきたい。

3. (2) 各論に関する御意見

⑧管理対象とする範囲（大臣管理区分、都道府県とその漁業種類）

- 管理対象とする範囲
 - 【大阪府】積極的に漁獲を行う漁業（大阪湾ではまき網漁業）については管理対象とするべきであるが、混獲や定置網等については、年間水揚げに占める割合が例えば30%を超えるものについては対象とするが、それ以外は対象とせず、漁獲報告のみとする。
 - 【広島県】瀬戸内海系群という範囲で括るべきではない。
 - 【愛媛県】同じ資源を活用する全ての漁業種類。
 - 【岡山県】小型定置網漁業、小型底びき網漁業
- その他
 - 【香川県】数量管理を実施する場合の配分基準については漁業者の自主的な取組みを考慮して検討して欲しい。

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府 鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	積極的に漁獲を行う漁業（大阪湾ではまき網漁業）については管理対象とするべきであるが、混獲や定置網等については、年間水揚げに占める割合が例えば30%を超えるものについては対象とするが、それ以外は対象とせず、漁獲報告のみとする。
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長	瀬戸内海系群という範囲で括るべきではない。同じ海域を同漁業で操業していても経営体毎に漁業の実態は異なる。
走島漁業協同組合 理事	
香川県漁業協同組合連合会 代表理事会長	数量管理を実施する場合の配分基準については漁業者の自主的な取組みを考慮して検討いただきたい。
愛媛県漁業協同組合 三島支所	同じ資源を活用する全ての漁業種類。
意見表明者の御意見	御意見の内容
岡山県漁業協同組合連合会 参与	岡山県：小型定置網漁業、小型底びき網漁業

3. 本部会で議論する事項について

(3) そのほかの御意見

- リモート会議ではなく、関係者全員を集めて会議を行うべき。(瀬戸内海漁業調整事務所で会議を行うべき。)
- (参考人の検討に際して、)シラスの扱いなどの情報について、今後は事前に情報提供を願いたい。
- 水産庁が考える「漁業者の意見を聴く」というのは聴くだけなのか。回答があるならどのような形で回答されるのか。
- 資源管理の用語やそれぞれの用語の関連性の説明について、漁業者に対して、丁寧に行って欲しい。
- 漁業者の理解が得られるまで、複数回、ステークホルダー会合を実施して欲しい。
- 数量配分はどのような方法で行われるのか。漁業者の自主的な取組みを考慮して検討して欲しい。

参考人からの御意見	御意見の内容
大阪府鰯巾着網漁業協同組合 副組合長	今回、東京での会議についてはリモートも可能としているが、リモートだと意見が出にくく、本音も言えないことから、関係者全員を集めて会議を行うべきである。 瀬戸内海系群の話をするなら、神戸にある瀬戸内海漁業調整事務所で会議を行うべきである。
神戸市漁業協同組合 育波浦漁業協同組合	今回、資源評価結果が公表されるまでシラスの扱いがどうなるのか不透明な状況のまま、参考人の検討を進めることになった。 参考人の検討に際して重要な要素であり、今後は事前に情報提供を願いたい。
鹿川漁業協同組合 代表理事組合長	繰り返しになるが④に記載した数量配分はどのような方法で行われるのか？この方法が明確でないと漁業者は自分たちにどのような影響があるかわからない。
走島漁業協同組合 理事	水産庁が考える「漁業者の意見を聴く」というのは聴くだけなのか？それに対する回答をするつもりはないのか？回答があるならどのような形で回答されるのか？
香川県漁業協同組合 連合会 代表理事会 長	資源管理の用語やそれぞれの用語の関連性の説明について、漁業者に対して、丁寧に行っていただきたい。漁業者の理解が得られるまで、複数回、ステークホルダー会合を実施していただきたい。
愛媛県漁業協同組合 三島支所	愛媛県において同じカタクチイワシ瀬戸内海系群を漁獲していても海域や漁業許可によって操業時期が異なっている。仮にTAC管理に移行した場合、府県毎にカタクチイワシ瀬戸内海系群の漁獲枠が設定されると認識しているが、資源のために操業開始日を遅らせたり、休漁日を設けたりして過度な漁獲にならないよう努めてきたことが、我々の不利に働かないよう国には願いたい。

3. 本部会で議論する事項について

(4) 御意見や論点のまとめ (案)

※検討部会における議論を踏まえ、
論点や意見は追加・修正される見込み

● 漁獲等報告の収集について

- 現場に負担のかからない報告体制を構築する必要がある。
- 報告の必要性を漁業者に説明し、理解を得るべき。
- 県間で報告義務の履行に差が生じる恐れがあるので、電子的な報告体制の整備を進めてほしい。
- シラスと交じりで報告される場合の漁獲量の集計方法はどうか検討する必要がある。

● 資源評価について

- 資源評価におけるシラスの考え方や経緯について、漁業者に対して丁寧にご説明いただきたい。
- 他の魚種との関係を十分に検討したうえで、資源評価・管理をして欲しい。
- 瀬戸内海系群を1つの系群とする根拠を示してほしい。
- 加入量の推定方法、資源量及び親魚量の関係性、再生産関係式や資源評価の妥当性について明記すべき。

● 資源管理について

- 資源評価や将来予測の精度を高めつつ慎重に進めるべき。
- 複数の漁獲シナリオを図示した上で、漁業者に説明すべき。
- これまでの資源の動向や環境要因を踏まえたもの、漁業者の自主的取組(禁漁期の設定、漁獲サイズの制限)を考慮したもの、禁漁期間の設定などを検討する必要がある。
- 柔軟かつ迅速なTAC管理ができる仕組みを明示する必要がある。
- 地域経済への影響も踏まえた経済的支援も検討していただきたい。

● SH会合で特に説明すべき重要事項について

- シラスの扱いについては適切に資源評価が可能となるまで慎重に議論願いたい。
- シラスとカタクチイワシの漁獲が資源に与える影響を評価し、効果的な資源管理手法を漁業者を含めて検討する必要がある。
- シラスの資源管理の方向性についても説明が必要。
- 漁獲可能量管理を導入することのメリット、経営面での支援策を提示する必要がある。
- 漁業者の理解を得るため、国は具体的な管理措置について説明する必要がある。
- 今後の資源動向に関する予想、効果的な資源管理方法の提言をして欲しい。

4. 今後について

新たな資源管理の検討プロセス

①	資源評価結果の公表	<ul style="list-style-type: none">令和4(2022)年9月に公表
②	資源評価結果説明会	<ul style="list-style-type: none">令和4(2022)年10月に開催
③	資源管理手法検討部会	<ul style="list-style-type: none">令和4(2022)年11月に開催参考人等からの意見や論点を整理
④	ステークホルダー会合 (資源管理方針に関する検討会)	<ul style="list-style-type: none">②で整理された意見や論点を踏まえ、具体的な管理について議論必要に応じ、複数回開催し、管理の方向性をとりまとめ
⑤	資源管理基本方針の策定	<ul style="list-style-type: none">③でとりまとめられた内容を基に、資源管理基本方針案を作成パブリックコメントを実施した後、水産政策審議会資源管理分科会への諮問・答申を経て決定
⑥	管理の開始	

本日はここ

参考. 「しらす」に係るコメントや御意見

「2. 関係地域の現状について」より抜粋

No.	都道府県	コメントの内容
1	大阪府	<ul style="list-style-type: none"> ● まき網漁業者は船びき網漁業を兼業しており、シラスが好調な時はまき網漁業に出漁しないケースもある。 ● シラスを船びき網で年間約3千トン漁獲している。
2	和歌山県	<ul style="list-style-type: none"> ● シラス(カエリ含む)は、船びき網漁業の主要な漁獲対象である。
3	岡山県	<ul style="list-style-type: none"> ● 岡山県では、いわし船びき網漁業、餌料いわし袋待網漁業により、2カ月齢までのカタクチイワシを含むシラス類が漁獲されており、3カ月齢以降のカタクチイワシは小型底びき網漁業または小型定置網漁業により、年によってわずかに混獲されている。
4	広島県	<ul style="list-style-type: none"> ● 漁期は、西部(安芸地区)が6月10日～翌2月末、東部(備後地区)が6月10日から12月31日。ちりめん加工されるシラスから、イリコ加工されるカエリ・小羽・中羽・大羽と呼ばれる幅広いサイズを利用。 ● 東部(備後地区)はちりめん用の漁獲が主だが、西部(安芸地区)は刺身で食する文化があるため、加工用の他、鮮魚出荷用としても漁獲される。
5	山口県	<ul style="list-style-type: none"> ● 船びき網漁業の漁期は、概ね6月～11月、チリメン銘柄も少量混ざるもののカエリ～大羽銘柄が漁獲対象。 ● 本県瀬戸内海においてシラスを漁獲対象とする漁業はない。
6	徳島県	<ul style="list-style-type: none"> ● 本県においては、シラスとしての漁獲が多い。 ● シラスは、主に紀伊水道で船びき網により漁獲され、周年漁獲されるが、例年、4月～12月に多い。 ● 船びき網漁業については、資源管理計画による休漁措置に取り組んでいるほか、徳島県鯷船曳網協会連合会で定めたシラス漁の定期休漁、操業時間短縮に取り組んでいる。
7	愛媛県	<ul style="list-style-type: none"> ● 瀬戸内海機船船びき網漁業では、操業開始日を定め一斉に操業を開始する。いわし機船船びき網漁業では、チリメンも漁獲している。盛漁期は6月から9月である。

参考. 「しらす」に係るコメントや御意見

「3. 本部会で議論する事項について」より抜粋 (1/2)

No.	カテゴリ	御意見の内容
1	全体に関する御意見	<ul style="list-style-type: none">● 瀬戸内海においてカタクチイワシは、成魚、シラスともに漁獲されている。● 大阪湾のカタクチイワシ漁獲量は、瀬戸内海全体の漁獲量の1割程度であるが、大阪湾では5割以上を占める年もあることから、カタクチイワシを資源管理の対象魚種にする場合は、先に成魚期とシラス期の資源関係を明らかにすべきである。● シラスは環境の影響によって死亡率が大きく変化する時期で、漁獲圧算定等が困難とのことであり、シラスを評価に含めないことは妥当と考える。瀬戸内海ではシラス漁が盛んであり、シラスの扱いについては適切に資源評価が可能となるまで慎重に議論願いたい。● 瀬戸内海ではシラスとカタクチイワシの漁獲量が同程度あり、カタクチイワシという魚種の資源を増加させるためにはシラスを含めた資源管理をしなければならないと考えている。● まずシラスを含めた資源評価を行い、シラスとカタクチイワシの漁獲が資源に与える影響を評価し、効果的な資源管理手法を漁業者を含めて検討することが先決ではないだろうか。● シラスについて数量管理から除外することは、むしろ漁業者がシラスを漁獲することを助長することとなり、国がこれまで推進してきた資源管理手法と逆行することになるのではないか。● いわし船びき網漁業、餌料いわし袋待網漁業では、2カ月齢までのカタクチイワシを含むシラス類が漁獲されており、小型底びき網漁業及び小型定置網漁業では3カ月齢以降のカタクチイワシ漁獲されている。ただし、小型底びき網漁業及び小型定置網漁業の総漁獲量のうちカタクチイワシが占める割合はごくわずかである。● 資源評価は2カ月齢までのカタクチイワシを除外して算出されたものであり、数量管理については3カ月齢以降のカタクチイワシに対して設定されると認識している。ステークホルダー一合会においては、このような管理を導入することになった経緯について、漁業者に対して丁寧にご説明いただきたい。
2	検討の対象となる水産資源の漁獲報告の収集体制の確認	<ul style="list-style-type: none">● シラスと交じりで報告される場合があるが、その場合の漁獲量の集計方法はどうか。
3	資源評価結果に基づく資源管理目標の導入に当たって考慮すべき事項	<ul style="list-style-type: none">● 毎年の漁獲量が資源量を必ずしも反映していない。例えば、シラスの方が好漁であれば、まき網に行かずシラス漁に行くため、カタクチイワシの漁獲量は減少する。その数字をもって資源が減少したと判断するのは早計であるので、その年の他の魚種との関係を十分に検討したうえで、資源評価をされたい。● 資源管理目標を定める上で、シラスとの資源関係は少なくとも傾向だけでも明らかにしないと漁業者は納得しないと思う。● 海況の変化により、親がいても稚魚(しらす)がわからない、稚魚がいても育たない状況が続いている。環境面の調査や海底耕耘、大発生しているクラゲ除去等、TACより優先度が高い課題があると思う。● 資源評価にしらすが含まれていないが、TAC管理でのしらすの位置づけをどう考えているのか？● カタクチイワシ瀬戸内海系群の資源評価は「シラス」を除くとされているが、「シラス」の漁獲を目的に操業している漁業者もいることから、資源管理目標を導入するのであれば、「シラス」の漁獲量についても把握すべきであると考え。

参考. 「しらす」に係るコメントや御意見

「3. 本部会で議論する事項について」より抜粋 (2/2)

No.	カテゴリ	御意見の内容
4	数量管理を導入・実施する上での課題及びそれら課題への対応方向	<ul style="list-style-type: none">● 資源管理目標を定める上で、シラスとの資源関係は少なくとも傾向だけでも明らかにしないと漁業者は納得しないと思う。● 瀬戸内海機船船びき網漁業においては、当歳魚(シラス)の解禁日を遅らせ、魚体重の増加を待って漁獲することによって漁獲量を増加させて漁獲する資源管理を実践している。しかし、TAC管理の導入によって前記資源管理が実践されなくなる恐れがある。● 本県(香川県)では、カタクチイワシとシラスの両方を漁獲しており、カタクチイワシのみに数量管理が導入されることは漁業者に不公平感が生まれることになるため、関係者へしっかりと説明していく必要がある。
5	数量管理以外の資源管理措置の内容(体長制限、禁漁期間等)	<ul style="list-style-type: none">● 【大阪府】シラスとの関係を考えるなら、親を守るのか子を守るのか、両方のバランスをどのようにすれば資源が守れるのかを明らかにしていただきたい。● 【大阪府】シラスを漁獲している以上、体長制限は不可能。また、まき網漁業についても周年行うため、禁漁期間も不可能である。ただし、毎日の操業時間についての制限は漁業者のコンセンサスが得られれば可能。● 【兵庫県】船びき網漁業(シラス)では各地で週2日以上以上の休漁を設定しているほか、操業時間の制限等も実施している。● 【岡山県】2カ月齢までのカタクチイワシを含むシラス類を漁獲するいわし船びき網漁業、餌料いわし袋待網漁業においては、漁業者の自主的な資源管理措置として休漁期間が設定されている。
6	ステークホルダー会合で特に説明すべき重要事項	<ul style="list-style-type: none">● シラスとの資源関係について明確な説明のないカタクチイワシの資源管理は漁業者の理解を得るのは難しいと考える。● シラスの取扱い。● なぜカタクチイワシのみの資源管理なのか説明する必要があると考える。また、シラスの資源管理の方向性についても説明が必要であると考え。